

「梅雨の時期に関する沖縄地方気象情報 第2号」の解説

1 梅雨明けの発表

沖縄地方は、太平洋高気圧に覆われておおむね晴れています。

今後の見通しは、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなる見込みです。このため、沖縄地方は6月8日ごろに梅雨明けしたと見られ、沖縄気象台は6月8日 11時00分に「梅雨の時期に関する沖縄地方気象情報 第2号」を発表しました。

2 今年の「梅雨明け」は6月8日ごろ(階級:「かなり早い」)

平年より13日早い、昨年より12日早い、1951年の統計開始以降、最も早い(1位の2015年と同順)

- (1) 平年は6月21日ごろ
- (2) 昨年(令和6年)は6月20日ごろ
- (3) 1951年(昭和26年)からの統計

ア 最も早い梅雨明けは2015年(平成27年)の6月8日ごろ

イ 最も遅い梅雨明けは2019年(令和元年)の7月10日ごろ

【参考】

梅雨明けの時期の階級(沖縄地方)

かなり早い	早い	平年並	遅い	かなり遅い
～6月10日ごろ	6月11日ごろ～ 6月20日ごろ	6月21日ごろ～ 6月23日ごろ 平年:6月21日ごろ	6月24日ごろ～ 6月29日ごろ	6月30日ごろ～

注1. 梅雨は季節現象であり、その入り明けには、平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間があります。

注2. 「平年」は、2020年(令和2年)までの過去30年の平均の日付です。

3 今年の梅雨期間(5月22日～6月7日)の降水量・日照時間(速報値)、平年値及び平年比

地点名	降水量(単位:ミリ)			日照時間(単位:時間)		
	観測値	平年値	平年比(%)	観測値	平年値	平年比(%)
那覇	195.0	161.5	121	57.8	73.9	78
名護	118.0	145.4	81	56.7	71.1	80
久米島	165.0	179.5	92	60.0	72.8	82
南大東島	242.0	173.5	139	67.0	90.2	74
宮古島	202.0	143.3	141	59.9	86.7	69
石垣島	121.5	130.7	93	64.4	96.3	67
西表島	146.5	110.5	133	67.5	96.3	70
与那国島	158.0	116.1	136	42.4	84.0	50

4 今年の梅雨の特徴

沖縄地方は、5月22日ごろ(平年より12日遅い)に梅雨入りしたと見られ、6月8日ごろ(平年より13日早い)に梅雨明けしたと見られます。

平年で梅雨入りしている時期にあたる5月中旬は、日本の南東海上で高気圧の張り出しが強まり、沖縄地方は晴れた日が多くなったため、梅雨入りは5月22日ごろとかなり遅くなりました。

5月22日から6月7日までの梅雨期間は、梅雨前線や低気圧、湿った空気の影響を受けやすかったことから、

曇りや雨の日が多く、大雨となった所もありました。特に、6月4日は城辺で193.0ミリ、鏡原で150.0ミリ、下地島で111.5ミリの日降水量を観測し、宮古島地方で記録的な大雨となりました。梅雨期間の降水量は、名護、久米島、石垣島で平年を下回りましたが、那覇、南大東島、宮古島、西表島、与那国島で平年を上回りました。また、日照時間は沖縄地方の全ての観測点で平年を下回りました(項目3の表を参照)。

梅雨明けは6月8日ごろとなり、統計を開始した1951年以降、2015年と並んで最も早くなりました。この要因は、上空の偏西風が平年より北を流れ、梅雨前線が本州付近まで北上したこと、沖縄地方は例年より早く太平洋高気圧に覆われる見通しとなったことが影響していると考えられます。

注) 梅雨の時期に関する気象情報は、現在(本日)までの天候経過と1週間程度あるいはその先までの天候の見通しをもとに、速報として発表する情報です。後日、春から夏にかけての実際の天候経過に基づいて梅雨入りと梅雨明けの時期を総合的に検討し確定しています。

※「令和7年の梅雨入りと梅雨明け(速報値)」：https://www.data.jma.go.jp/cpd/baiu/sokuhou_baiu.html